

Ⅱ(5) 滑らかな接続を目指す幼・保・小連携の取組

- ◎ 大崎市立松山小学校と大崎市松山子育て支援総合施設あおぞら園の幼・保・小連携の取組を紹介します。
- ◎ 松山小学校とあおぞら園では、隣接という恵まれた立地環境を生かした取組を行っていますが、子供同士の交流だけでなく、職員の交流や、滑らかな引継ぎ等の取組は各校で参考となるものです。各校の実情に合わせて連携に取り組んでいきましょう。

1 幼・小の交流活動

- ① 5・5交流（5歳児と5年生との交流活動）
5歳児が入学した時に、主としてお世話してくれる6年生が現在の5年生であることから、5歳児と5年生が交流する活動。次年度への接続へ有効。
- ② 業間交流
小学校の業間時間に合わせて、園児が小学校の校庭に行き、自由に遊ぶことで、園児と児童の自然な交流を促す取組。
- ③ なかよしまつり
1年生の生活科の学習を生かした取組。1年生の「なかよしまつり」に5歳児を招待することで1年生と5歳児の交流を促す取組。

2 幼・保・小の教職員間の相互理解

- ① 相互授業参観
指導主事訪問を利用した相互授業参観
- ② 保育体験
夏季休業中の職員研修として小学校教員があおぞら園にて保育を体験
- ③ 合同研修会
幼・保・小の合同職員研修として特別支援教育に関する講演会に参加
- ④ 松山っ子を語る会
松山小学校とあおぞら園の教職員による情報交換会

3 円滑な接続のためのカリキュラム編成

- ① 目指す子供の姿の設定（幼・小共通）
「松山っ子の合い言葉：へんじ・あいさつ・くつならべ」
- ② 幼・保・小連携全体計画の作成
現行の教育計画・年間指導計画を生かした交流計画

4 特別な教育的配慮を要する子供への支援

- ① 「気になる子」の滑らかな引継ぎ
引継ぎ資料の様式の整備
チェックリストの作成と活用
就学までの支援の流れの整理



◎ 幼・保・小連携を推進するために、こんな工夫は・・・

① 幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続を目指して

幼稚園と小学校では子供の生活や教育方法が異なります。このような生活の変化に子供がうまく適応できるようにするために、「アプローチカリキュラム」「スタートカリキュラム」が重要です。それぞれの教育課程を生かした計画で、無理のないように実践していきましょう。

② 教職員間の連携推進に向けて

地理的に子供の移動が難しく幼児と児童の交流活動が実現できないこともありますが他校種の指導内容や指導方法、子供の実態を知ることは有効です。指導主事訪問や校内研究での相互授業参観などを生かし、職員同士の交流を進めましょう。